結果の考察（R4、7月）

<保護者アンケートより>

- ・最も評価の高かった項目は、「児童のいろいろな行事への取組」ですが、昨年度と比べると、若干低下しています。評価の高かった要因としましては、新型コロナウイルス感染症が未だに収束しない状況にありますが、感染症対策を十分に行うことによって、保護者の方々にご理解とご協力を得ることができたためと思います。また、1学期は、規模を縮小した行事もありましたが、全ての行事を実施することができ、子供たちは運動会や校外学習等に一生懸命に取り組むことができました。1学期は授業参観も実施することができ、児童の頑張っている姿を見ていただく良い機会となったことも高評価に繋がった要因と考えられます。
- ・次に評価の高かった項目は、「ICT機器の活用」で、3番目に高かった項目は「基礎的な学力が身に付く分かりやすい授業」でした。担任は、子供たちの学力や学習意欲を向上させるために、積極的にクロームブックや電子黒板などのICT機器を活用した授業を展開しています。また、本年度は、算数科における効果的なICT機器の活用方法についても校内で研究を進めています。子供たちは、クロームブックの操作にも慣れ、高学年においては、自由自在に活用する姿も見られます。このような取組が、高評価につながったものと考えられます。また、欠席した児童に対しても、できる限りリモート授業で対応したことも高評価に繋がった要因と考えられます。
- ・最も評価の低かった項目は、昨年度に引き続き「児童の読書活動への取組」でした。しかし、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者の方は73.1%（昨年度63.3%）で、およそ10%上昇しました。学校では朝の読書活動や休み時間の図書室の利用、図書委員会による本の紹介などで、読書活動の奨励に力を注いでいます。1学期は、学校図書館での本の貸し出し数も増えたようです。ご家庭でも読書を行う児童が徐々に増えてきているのではないかと推測できます。ご家庭におかれましてもノーメディアデーに継続してご協力いただき、本に接する機会を増やしていければと考えております。
- ・次に評価が低かった項目は、「家庭での自主学習への取組」です。担任は、毎日、継続的にドリルなどの宿題を出し、ほとんどの児童はきちんと取り組むことができています。しかし、宿題以外の自主的な学習には結び付いていない現状にあります。クロームブックを毎日持ち帰っているため、電子学習ドリルの「ナビマ」などを活用するとともに、担任よりの声かけにより、子供たちの学習意欲を向上させていきたいと思っております。ご家庭においてもご協力よろしく願いいたします。
- ・記述欄には学校の取組に対してのご理解と賞賛を多数いただきありがとうございます。しかし、一方で、クロームブックの取り扱い、校外での子供たちのあいさつ、通知表の所見を3学期のみにした件、体操着の生地の件、宿題について、小グループの編成の仕方について、リモート授業について、上履きの自由化、プール学習について等、様々なものがありました。貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後の課題として改善に向けて学校で協議していきたいと思っております。

<児童アンケートより>

- ・全体的に高評価な結果となりました。その中でも最も評価が高かった項目は、「いろいろな行事等への取組」です。今年度は運動会が5月（昨年は10月）に実施されました。午前中開催でしたが、子供たちは頑張ってお練習に取り組み、素晴らしい運動会になったことや、コロナ禍においても遠足や体験学習など変更なく実施できたことが、高評価に繋がった要因だと考えられます。

- ・次に評価が高かった項目は、「先生は分かりやすく勉強を教えてくれる」でした。昨年度よりクロームブックが全児童に配付されたことにより、教師が積極的にICT機器を活用して分かりやすく授業を心がけている結果だと思われます。また、子供たちも、積極的にクロームブックを活用するなど、充実した授業が展開されています。
- ・最も評価が低かった項目は、「家庭での自主学習への取組」です。宿題は行うものの、自主的な家庭学習の習慣化へとつながっていないことが要因と考えられます。しかし、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童は86.9%(昨年度84.1%)で、前回より2.8%上昇しており、教師の働きかけやクロームブックの活用などが好影響を及ぼしていると考えられます。
- ・次に評価の低かった項目は、「いじめはなく教室は安心できる場所である」でした。こちらも改善傾向にあり、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童は90.7%(昨年度84.9%)で、5.8%上昇しました。教育相談を充実させるとともに、校内生徒指導連絡協議会で共通理解を図り、いじめ防止に向けて引き続き十分な取組を行っていききたいと思ひます。また、子供たちを注意深く観察し、小さな変化に気付けるようにしていきたいと思ひます。

<職員アンケートより>

- ・最も評価が高かった項目は、「児童や保護者の話をよく聴いている」でした。学期に1回の教育相談の他に、普段の生活や生活アンケートで気になった児童と教育相談を行うなど、児童と話す機会の確保に努めています。また、保護者の方々の要望等に丁寧に対応していることや、4月の家庭訪問(希望制)や7月下旬に行った個別面談で、保護者の方々と話せたことが好結果につながった要因と考えられます。
- ・次に高かった項目は、「あいさつやマナーの指導」でした。子供たちのあいさつの声が小さくなっていると感じ、学校では、継続してあいさつの指導に努めております。学校評価アンケートの保護者の方より「校外であいさつをしてくる児童は極少数である」というご指摘も受けております。引き続き、学校では、あいさつをはじめとした基本的なマナーについて指導していきますが、ご家庭におかれましても、お声かけよろしくお願ひいたします。
- ・一方、最も評価が低かった項目は、「家庭での自主学習への取組」でした。保護者、児童ともに低評価になっており、今後の重点課題です。教員も宿題については、いろいろ考えて出しているものの、一部の児童が提出しなかったり、提出はするものの内容がともなわなかったりしています。また、自主的な家庭学習つながっておらず、充実した家庭学習の習慣化に向け、さらに工夫していく必要があります。
- ・次に評価が低かった項目は、「基礎的な学力が身に付く分かりやすい授業」でした。教員は、基礎・基本の定着に向け、ICT機器を活用した授業改善に取り組み、工夫して授業を行っていますが、一部の児童において成果が上がっていないことが一つの要因となっているようです。しかし、保護者、児童ともに高い評価をいただいているので、今後とも工夫して授業を行い、自信をもって、取り組んでもらいたいと思ひます。
- ・また、「健康に関する指導」も低評価でした。これは、健康に関しては、日常的に子供たちに指導しているが、授業として位置づけた計画的な指導が不十分であったと感じている教員がいることに起因しています。計画的に実施できるようにしていきたいと思ひます。
- ・昨年度、最も評価の低かった「英語活動の充実」の項目において、大幅な改善が見られました。「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した教員が86.7%(昨年度68.8%)で、17.9%上昇しました。2020年度から始まった5・6年生の英語の教科化、3・4年生の外国語活動の授業にも慣れ、ALTと連携して充実した授業が実施できているためと考えられます。